美東（女子）神森（男子）頂点

残り13秒 速攻で逆転

■ ハンドボール（石垣市総合体育館）

【男子】
▽準決勝
神森 34―11 宮里
仲西 25―20 浦西
▽決勝
神森 36―24 仲西

【女子】
▽準決勝
美東 32―12 神森
仲西 30―11 西原
▽決勝
美東 19―18 仲西
14―8
5―10

女子決勝　美東―仲西　後半、シュートを放つ美東の上間望愛＝石垣市総合体育館（新垣玲央撮影）

美東

女子決勝は美東が試合終了間際に逆転し、ライバル仲西を19―18で制した。

「前半は自分たちのプレーができていなかった」とGKの比嘉楓主将。持ち味の速攻はことごとく止められ、仲西のエース砂川茉穂らのクロスアタックに切り崩された。5点を追う展開となり「気持ちで負けている。全力でやろう」（比嘉）と切り替えた後半は、相手の得点源を徹底マークして守備から立て直した。

センターの金城菜々子は「自分一人じゃない。周りを使って流れをつくる」と奮起。右バック上間望愛、左バック名嘉陽菜らと細かくパスを回して相手を揺さぶり、3人で得点を重ねて10分すぎに追い付いた。

それでも逆転できないまま試合は進み、同点で残り30秒を切った。ここで比嘉が好セーブ。金城が速攻で一気にシュートへ持ち込み、待望のリードを奪った。残り13秒をしのぎ切り、激戦が終わった。

後半7得点と量産した金城は「一進一退の攻防を楽しかった」と振り返る。一方で「もっと良い試合ができたはず。個々のスキルを高め、視野も広げないと」と課題も忘れない。「九州も沖縄同士で決勝を」とライバルと共に全国を目指す。（新垣玲央）

女子優勝の美東

全員得点 点差広げる

神森

男子は3月に全国制覇した神森が圧倒的な力を見せつけ、仲西を36―18のダブルスコアで退けた。

「絶対取るという思いで気持ちを一つにしてきた」と伊禮颯雅主将。堅守からの速攻で序盤から得点を量産し、目標とした「全員出場、全員得点（GK以外）」も達成した。

前半は11分すぎまで失点1に抑えるなど、堅守を発揮。個々の高い能力が光り、速攻や相手の隙を突くパス回しで次々とゴールに結び付けた。

「全国大会へ一人一人の意欲も高く、チームがまとまっている」と多和田真尚コーチ。伊禮は「九州、全国でも優勝旗を取れるように、個々のディフェンスの強さ、シュート力をもっと上げたい」と意気込んだ。

㊤男子決勝　神森―仲西　前半、12点目を決める神森の親泊寛粋㊦男子優勝の神森